

はじめに

本校は昭和39年に養護学校として発足し、37年が経過しました。今回の教育課程の編成は5回目となります。この間を振り返ってみますと、本校は個々の児童生徒の生活力の向上あるいは全面発達といったことをめざしてきています。しかしねらうところは「いかに社会人として自立させるか」から、「その子らしく精一杯生きる力を育てる」へと変わってきています（本校教育目標から）。そして障害の重度化・重複化・多様化といった児童生徒の実態に伴い、「どの子にも行き届いた教育」ということで、生活科、養護・訓練（自立活動）といった新しい教科領域が考えられ、指導内容や方法の面においても一段と充実が図られるようになって今日にいたっています。同時にまたこの教育を取り巻く社会の変化は絶えず教育課程編成に影響を与え、今回もノーマライゼーションの思潮、QOL（生活の質）の重視、新しい障害観、障害者本人の主体性の確立（自己選択、自己決定）といった教育福祉のながれは学校教育にも色濃く反映される時代ともなっています。とりわけ児童生徒の意欲や主体性を大切に、個性の尊重などの重視は“指導”から“支援”へという新しい指導観をうみ、学校での指導を考える上で重要なポイントともなっています。

本校ではこうした背景と学校週五日制をみすえ「豊かな心と生活をめざして」のテーマで実践研究をすすめ、今回教育課程としてまとめることになりました。総合的な学習や個別の指導計画の受け止め方など懸案事項を多少残してはいますが特色ある試みも包含しています。

皆様方の率直なご意見ご批判をお願い致します。

平成14年 2月

金沢大学教育学部附属養護学校
校長 斎藤和夫